

生産拠点を増強し、高品質なものづくりを貫く

アルビオン熊谷事業所『K1200プロジェクト』を推進

>>>2018. 03. 07

株式会社アルビオン(東京・中央区、代表取締役社長・小林章一)は、今後の持続的成長を見据え、生産・物流拠点であるアルビオン熊谷事業所(埼玉県・熊谷市)にて、『K1200プロジェクト』を推進いたします。2020年を目処に、生産高1200億円に対応可能な生産体制の実現を目指し、順次、生産・物流拠点の増強を図ってまいります。



▲ 2020年 アルビオン熊谷事業所構想図

■ 自社生産へのこだわり

アルビオン熊谷事業所は、1.熊谷工場、2.東日本流通センター、3.熊谷ワークライフセンター(障害者就労支援施設)から成り立ち、現在アルビオンブランドの商品は全体の約9割を自社の熊谷工場にて生産しています。

創業以来、高級品を自分達の手で創ることにこだわり、自社で培った製造方法や製造工程のノウハウを強みに、お客様一人ひとりに安心、安全、信頼を感じていただける高品質なものづくりを追求しています。

■ プロジェクト始動の背景と今後の取り組みについて

需要拡大に伴い、2009年より生産高800億円に対応可能な生産体制を築く『K800プロジェクト』をスタート。生産エリアの拡大や衛生環境の向上を目指し、2015年には工場の敷地内に新棟(資材厚生棟)を設立し、生産棟内に設置していた資材倉庫や食堂、事務エリアを新棟へ移動させることで生産棟を独立。主力商品の「薬用スキンコンディショナーエッセンシャル」(以下「スキコン」)や乳液の自動化ライン、メイクセル生産エリアを新設するなど、生産能力を大幅に拡大いたしました。

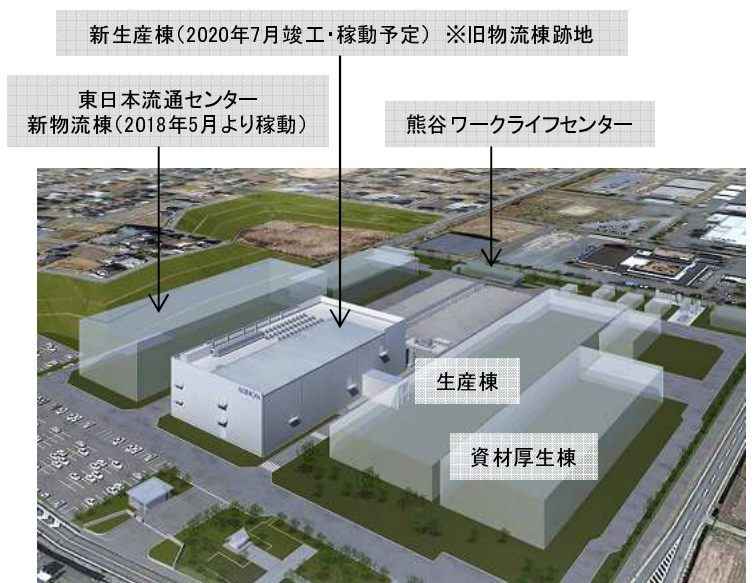
さらに、近年の国内外の需要増加への対応を図るため、事業所では生産高1200億円に対応可能な『K1200プロジェクト』を2016年より始動。今年5月の新物流棟の稼動を皮切りに、2020年7月の竣工・稼動を目指して、スキンケアのバルク(化粧品の中身)製造と、「スキコン」や乳液等の大量生産品に特化した新生産棟の建設に今秋より着手してまいります。これにより、スキンケアの生産能力を約1.3倍に引き上げるとともに、医薬品レベルの品質管理を実現させるなど、生産体制の強化を推進。将来的にも更なる需要拡大に対応すべく準備を進めており、より高品質な商品の供給を目指して、継続的に生産現場の増強に取り組んでまいります。

■新物流棟の建設

熊谷事業所内の東日本流通センターは2003年より稼動し、西日本流通センター(広島県)と合わせて日本全国のアルビオンの物流をカバーしています。近年の売上拡大に伴い、出荷作業量、必要在庫ともに急速に増加し、その対応として、新たに3階建て、延床面積10,826㎡の新物流棟を事業所内に建設いたしました。在庫保管は従来の約1.6倍、年間出荷可能金額は約2倍に能力を引き上げ、2018年5月より本格稼動いたします。同物流棟では、自動倉庫システムや最新のマテリアルハンドリング機材を導入するなど、物流業務の効率化に大きく貢献する見込みです。



▲ 東日本流通センター<新物流棟>



▲ 2020年 アルビオン熊谷事業所構想図

<資料>

▼『アルビオンのこだわり』熊谷工場について

<http://www.albion.co.jp/company/philosophy/rd/factory/>